

7月の植物

ユウスゲ (キスゲ) ユリ科

学名 : *Hemerocallis citrina* Baroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Motta

葉がカタリグサ科のスゲに似ていて、夕方に花が咲いて翌日の午前中には閉じることからユウスゲ (夕菅)、あるいは、花の色からキスゲ(黄菅)と呼ばれる。また、花に香りがあるためからか、麝香菅という漢名を持つ。本種はこれまでの分類体系ではユリ科に分類されていたが、新しい分類体系であるAPG分類ではススキノキ科に入れられている。ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ニシノハマカンゾウ、ニッコウキスゲなどもこの科になる。県内では檜原湿原、佐賀市富士町といった標高が高い箇所や、値賀崎、波戸、串崎など海岸近くに分布する。全国的な分布は本州、四国、九州となっている。夕方に咲いて翌日に花を閉じるはかなさは抒情的で「ゆうすげの花」「ゆうすげの恋」という歌謡曲もあるようだ。唐津市鎮西町串崎には地域住民が植栽して管理している「ゆうすげの里」があるが、そこには8千平方メートルに約25万本のユウスゲがあるらしい。7月の例会場所である串崎海岸にも生育しているが、前述のとおり午前中には花が閉じるため、例会時間まで開花している花が残っているといいのだが。(古賀保匡)



檜原湿原 2007.7.26 (上赤博文氏撮影)